

試合結果報告 (GAME REPORT)

大会名称/Title:	第 22 回日・中・韓ジュニア交流競技会 バスケットボール競技 男子	
会 場/Venue:	一関総合体育館 UDーム	
期 日/Date:	平成 26 年 8 月 25 日 (月) 10:00~	試合区分:

【 試合結果 】			
日本	126	58	韓国
(1 勝 0 敗)	$\left(\begin{array}{r} 32 - 12 \\ 32 - 18 \\ 27 - 16 \\ 35 - 12 \end{array} \right)$	-	(0 勝 0 敗)

第1 ペリオド

日本#6 村井#8 鳥羽#10 鶴巻#12 秋山#14 高橋、韓国#4 金(秀)#5 丁#11 金(兌)#13 権、#20 申でスタートし、日本は#10 鶴巻の3P で先制。オールコートマンツーマンで韓国にプレッシャーをかけてミスを誘うと、#11 羽多の速攻、#7 中村のディフェンスから#5 長谷川のレイアップと、序盤から韓国を圧倒する。対する韓国は#4 金(秀)がドライブで積極的にゴールに向かって得点し、#13 権も高さを生かしゴール下で得点して対抗するも、32-12 と日本が大きくリードする。

第2 ペリオド

日本はメンバーチェンジを多用し、オールコートでプレッシャーをかける。韓国も慌てずに対応するも、日本のディフェンスをうまく崩せず、パスミス、シュートミスが続く。そのすきを日本は見逃さず、#12 秋山、#8 鳥羽、#5 長谷川、#7 中村のシュートでさらにリードを広げる。韓国もタイムアウトを取って立て直しを図るも、苦しい展開が続く。第2 ペリオド後半、日本がゾーンディフェンスにすると、韓国は#5 丁、#23 全が3P を決め対抗。前半は64-30 で日本がリードした。

第3 ペリオド

序盤は韓国がリズムをつかみ、#10 李がバスケットカウントを奪うと、#4 金(秀)のアシストから#13 権、#11 金(兌)の速攻で連続して加点。すると日本はたまたまタイムアウトを請求する。その後日本はリズムを立て直し、日本は#15 鈴木のリバウンドショット、#8 鳥羽の個人技で得点した。韓国もDFをゾーンに変えて流れをつかもうとするも、日本は#11 羽多のミドルシュート、#13 岡野のゴール下で効果的に攻めた。

第4 ペリオド

日本はオールコートでプレッシャーをかけて、韓国のミスを誘い得点を重ねる。大きく点差は離れても、韓国は決してあきらめることなくゴールに攻め続け、#4 金(秀)のドライブから#23 全の3P、#11 金(兌)のレイアップシュートで得点するなど、最後まで戦う姿勢を貫き通した。日本はメンバー全員で自分たちの目指すバスケットで戦い続け、126-58 で勝利した。

担当者: 岩手県高体連バスケットボール専門部

所属: 千葉 紘平